

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	塩屋北児童発達支援教室バンビ			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 8日		～	令和7年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和7年12月8日		～	令和7年12月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 26日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心・安全に配慮した環境づくり	マット敷きで段差をフラット化し、転倒リスクを軽減。 折りたたみ机を導入し、活動内容に応じてスペースを柔軟に確保している。 支度カードなど視覚支援を取り入れ、子どもが見通しを持ちやすい環境を整備。 危険箇所には保護材や職員の見守りを配置し、安全性を高めている。	ステップの浮きなど、細かな安全面の改善を継続的に検討する。
2	個性を大切にした専門的な支援体制	規定以上の職員配置で、個別支援が十分に行える体制を確保している。また、アセスメントを丁寧に行い、児童発達支援計画を職員間で共有している。 小集団・個別活動を組み合わせ、発達段階に応じた支援を実施。活動プログラムはチームで立案し、固定化しないよう週替わりで担当者を変更している。	支援前後の打ち合わせを行い、共有の質を高める。 職員間での気づき共有を仕組み検討（共有ノート・ミニミーティングなど）。 専門家の助言を受ける機会を増やし、相談支援員、訪問支援員と情報を共有。継続的に支援の質の向上を図る。
3	保護者との連携・説明の丁寧さ	個別支援計画書の事後評価や支援方針等を面談で丁寧に説明。連絡帳やブログで日々の様子を共有し、保護者との共通理解を深めることに努めている。 相談は随時受け付け、電話・LINE・意見箱など複数の窓口を用意している。また今年度より相談支援事業が開始。相談支援員と連携を取り、保護者に対するより細かな支援を行っている。活動内容や行事予定の発信を定期的に行っている。	家族支援プログラムのニーズ調査を定期的に行い、希望者が参加しやすい形を検討。 支援計画の説明をより理解しやすいように努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者交流・家族支援プログラム	お子様が当事業所に通われていることをオープンにしていない 保護者様もいるため行ってこなかった。ニーズがあれば開催を検討したいと考え保護者アンケートを実施した結果、希望者がいなかったため実施に至らなかった。	本年度も保護者アンケートを実施する。 家族支援の一環として、今年度より始まった相談支援事業、訪問支援事業にて個別に対応できることも改めて周知していく。
2	地域交流・他園との交流が少ない	通所をオープンにしていない家庭があり、交流企画が立てにくい。	今年度より訪問支援事業が始まり、保育園や訪問支援員とも情報共有ができるようになった。 書面ベースの連携（引き継ぎシート・支援内容の共有）を強化する。 地域イベントに「参加する側」として関わりから始める。
3	外部評価・外部連携の不足	外部機関とのつながりが少なく、相談先が限定されている。 外部研修や専門家との接点が少ないため、連携の機会が生まれていない。	今年度から訪問支援事業が始まり、利用児が通う園との連携が取れてきた。子どもの園での生活の様子や、集団での様子、支援内容について共有できるようになり連携が強化されると考えている。 神戸市から事業所に派遣されるセラピストの方から専門的なアドバイスを受けることが出来るようになり、日々の支援や関わり方の参考になっている。